

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	1	教育環境の整備

課（係）名	教育総務課	
作成年度	平成26年度（更新日）	平成26年6月18日

目的	管理指標	実績 (H25年度)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H23年度)	(H24年度)	備考	
基本計画	児童・生徒が学習しやすいまちを目指します。	学校施設の耐震化率	97.0%	100%	27年度	82.4%	97.0%	
		教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数	8.2人	3.6人	27年度	11.8人	11.5人	
目的を達成するための具体的な方策	01 総合的教育行政の推進	小中学校施設管理のあり方検討会の開催	1回/年 (延べ7回)	延べ回数15回	27年度	2回/年 (延べ5回)	1回/年 (延べ6回)	
	02 学校施設の耐震化	学校施設の耐震化率	97.0%	100%	27年度	82.4%	97.0%	
	03 学校給食のあり方の検討	給食実施校（委託校を除く。）1校当たりの正規調理員の配置人数	2.0人 (16人/8校)	2.0人	27年度	1.7人 (17人/10校)	1.7人 (17人/10校)	年度末時点
	04 情報教育環境整備の充実	教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数	8.2人	3.6人	27年度	11.8人	11.5人	

市民との協働方策	01 保護者と地域の方たちとの協働による教育環境の整備	《平成25年度末時点の活動状況》	《平成26年度の改善のポイントや重点方向等》
		市内全ての小中学校においてPTAと教職員による学校内の清掃奉仕作業を実施したほか、校舎内のペンキの塗り替え作業等、各種業界団体からの協力も得ながら教育環境の美化に努めた。また、PTAの清掃奉仕作業に必要なゴミ袋（700）は市で提供し、平成25年度では約3,000枚のゴミ袋を使用した。	引き続き、PTAと教職員による学校内の清掃奉仕作業を中心に、協働による教育環境の整備を図るとともに、市職員もこれらの活動に積極的に参加するなどして、更なる協働を目指す。

《実績評価》

(1) 基本計画指標の達成度（総務係）

- ・市内小中学校の内、唯一文部科学省の耐震基準を満たしていない西小学校屋内運動場の耐震化を図るため、平成25年度においては当該建物の改築工事を実施するための基本実施設計業務を完了した。
- ・教育用コンピュータについては小・中学校15校全てで5年間の長期継続契約で実施しており、平成25年度では小学校の更新を実施しパソコン教室における1人1台パソコンを実現し

(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度

【01総合的教育行政の推進】

- ・保護者、学校関係者等で構成する「小中学校施設管理のあり方検討会」を平成22年度から引き続き開催した。会議では、26年度に予定する西小学校屋内運動場の耐震化、学校給食の進捗状況及び学校施設の適正配置について意見交換を行った。

【03学校給食のあり方の検討】

- ・食物アレルギー対応などの安全対策が重要視され、また、今後新たに中学校給食を開始する等、将来に渡って安定的な調理体制を構築していくことが求められていることを踏まえ、調理場の集約や民間委託の導入等を進めることにより、体調不良（感染症拡大の未然防止）等、急遽の欠員が生じても学校間のヘルプ要員の派遣により安心して給食が提供できる体制を確保していく。平成25年度は1人の調理員が減少する中、東小と川奈小との親子方式給食を民間委託により開始するなどして2.0人配置を維持した。



方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H25年度)	目標	期限	《平成26年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01		総合的教育行政の推進					01総合的教育行政の推進 ・小中学校施設管理のあり方検討会の意見を踏まえ、緊急度の高い整備を優先して実施していく。
0101	0101	学校施設管理に関する定期的意見交換の実施	検討会開催回数	1回/年 (延べ7回)	延べ回数15回	27年度	
0102	0102	学校施設の整備	学校施設工事要望件数	89件	0件	27年度	
02		学校施設の耐震化					02学校施設の耐震化 ・耐震化未実施の西小学校屋内運動場については、改築工事を実施し、早期の耐震化完了を目指す。
0201	0201	要耐震化施設の耐震化（小学校）	耐震化未実施棟数	1棟	0棟	27年度	
0202	0202	要耐震化施設の耐震化（中学校）	耐震化未実施棟数	0棟	0棟	27年度	
03		学校給食のあり方の検討					03学校給食のあり方の検討 ・0301 下田高校に設置した県の専門機器を活用しての測定を引き続き実施するとともに、県内自治体の測定結果も注視しながら食材の選定に努める。 ・0302 6月に実施する「ふるさと給食週間」を活用し、引き続き地産地消を推進する。 ・0303 任用替え等により、調理員の更なる減少が予想されるが、宇佐美小と宇佐美中との親子方式給食を民間委託により開始することで、2.0人体制（急遽の欠員が生じても学校間のヘルプ要員の派遣可能な体制）を維持していく。 ・0304 3中学校及び大規模小学校への配送を想定した3,000食の調理能力を持つ給食センターを建設し、平成28年度2学期から運用開始を目指す。
0301	0301	安全な学校給食の提供	専門機器による給食食材の放射性物質検査の実施数	8回30食材 (いずれも検出無し)	継続実施	27年度	
0302	0302	魅力ある学校給食の提供	給食食材における県内産品の活用割合	50.2%	50%	27年度	
0303	0303	安定的な調理体制の構築	給食実施校（委託校を除く。）1校当たりの正規調理員の配置人数	2.0人 (16人/8校)	2.0人	27年度	
0304	0304	中学校給食の実施に向けた検討	給食センター建設の進捗状況	設計業者の決定 ※予定	完成	27年度	
04		情報教育環境整備の充実					04情報教育環境整備の充実 ・第2期教育振興基本計画（H26～H29）の整備目標を踏まえ、平成27年度までに当該計画の1/3程度を達成するため、地方財政措置や国の交付金（補助）制度の活用により、教育用コンピューター1台当たりの生徒数3.6人、電子黒板・実物投影機の普通教室への配備、超高速インターネット接続率及び無線LAN整備率100%、教育用ソフトやICT支援員の配置に向けた計画的な導入を進める。 ・中学校3校（南・対島・門野中）については、平成26年10月から1年間の再リースを実施し、残りの中学校2校（北・宇佐美中）のリース満了期間である平成27年8月に目標に近づけるよう整備内容の見直し等の検討を進めていく。
0401	0401	教育用パソコン整備	パソコン台数	601台	500台 (1,420台)	27年度 (29年度)	
0402	0402	電子黒板の普通教室配置	設置台数	15台	60台 (182台)	27年度 (29年度)	
0403	0403	実物投影機の普通教室配置	設置台数	0台	60台 (182台)	27年度 (29年度)	
0404	0404	超高速インターネット接続	接続済校数	0校	5校 (15校)	27年度 (29年度)	
0405	0405	無線LAN整備率	整備済校数	0校	5校 (15校)	27年度 (29年度)	
0406	0406	校務用コンピュータ1台当たりの教員数	設置台数	313台	313台	27年度	

政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	2	教育の充実（幼稚園）

課（係）名	幼児教育課（幼稚園）	
作成年度	平成26年度（更新日）	平成26年6月18日

目的	管理指標	実績 (H25年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H23年度末)	(H24年度末)	備考	
基本計画	どの子どもも夢を持ち、のびのびと活動する園のあるまちを目指します。	幼稚園が楽しいと思う子どもの割合	99.0%	99.0%	27年度	98.2%	97.0%	H21年度から外部を含めた学校評価を実施
目的を達成するための具体的な方策	01 幼稚園教育の充実	教育課程の編成等小学校と連携している園数	13園	14園	27年度	13園	13園	県で実施している「幼児教育に係る実態調査」を準用し、アンケートを実施
	02 保護者と共に子どもの育ちを支える	子育て支援事業を実施している幼稚園の割合	100.0%	100.0%	27年度	57.1%	100.0%	
	03 集団保育を実施するための環境整備	集団保育を行い難い小規模園数	4園	3園	27年度	4園	4園	伊東・湯川・富戸・池
	04 子育てニーズに応じた幼保連携の推進	教諭・保育士資格の併有率	67.7%	80.0%	27年度	68.2%	69.2%	

市民との協働方策	《平成25年度末時点の活動状況》		《平成26年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 地域行事、園行事を通しての地域住民との相互交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の祭典等を通じての交流実施園：6園</li> <li>・老人クラブ、老人施設等異世代交流実施園：7園</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流を推進できるような園行事を積極的に教育課程の中に組み込むよう検討する。</li> <li>・中高生との異世代交流を推進する。</li> </ul>

《実績評価》

(1) 基本計画指標の達成度

- ・平成25年度伊東市立幼稚園評価アンケートの調査内容をより具体的な問いに変更し「園の活動内容や行事等は、お子さんにとって楽しいものになっていますか」とした。

(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度

【01幼稚園教育の充実】 連携園数に変化はないが、平成25年度において保育園、幼稚園、小学校の教諭により「伊東市保幼小連携プログラム」をもとにし、更なる連携の強化を図った。

【02保護者と共に子どもの育ちを支える】 子育て支援事業実施は、100%に達した。これは、外部人材を講師とした子育て講演会の実施を積極的に行った結果である。

【03集団保育を実施するための環境整備】 指標園数に変化はないが、伊東幼稚園と湯川分園と合同保育や、富戸幼稚園と池幼稚園の相互訪問を積極的に行っている。

【04子育てニーズに応じた幼保連携の推進】 教諭・保育士資格併有率は、67.7%と減少した。今後は幼稚園教諭の採用は教諭免許と保育士資格の両方を条件としていくため併有率は増加すると見込まれる。



方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H25年度末)	目標	期限	《平成26年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01		幼稚園教育の充実					01 幼稚園教育の充実 【重点方向】 ・平成23年度に策定した「伊東市保幼小連携プログラム」を効果的に活用し、保幼小の交流、連携を実施する。 【改善のポイント】 ・平成26年度は新規採用教諭が3人いる。配属園では日常の保育実践のほか、週10時間以上、年間300時間以上の園内研修を実施する。また、年間25日以上、園外研修を行い、実践的指導力と使命感を養う。
	0101	地域の特色を生かした保育計画の策定	保育計画策定園数	全園	全園	25年度達成	
	0102	保育園・小学校との交流活動の推進	幼・保・小の交流実施園	85.7%	100%	27年度	
	0103	幼児教育向上のための研修会への参加等	研修会参加者数	教諭全員	教諭全員	25年度達成	
	0104	幼稚園の相互訪問の実施	幼稚園の相互訪問実施回数	14回	14回	25年度達成	
02		保護者と共に子どもの育ちを支える					02 保護者と共に子どもの育ちを支える 【改善のポイント】 ・「新しい公共」の視点に立ち、保護者、ボランティア、地域と協働できる事業、活動を推進する。
	0201	幼稚園を拠点とする子育て支援の推進	子育て支援事業の実施園	14園	14園	25年度達成	
	0202	保護者の保育参加の促進	保護者の保育参加日数	86日	98日	27年度	
	0203	PTAボランティア活動の促進	活動園数	8園	14園	27年度	
	0204	要耐震化施設の耐震化	未実施施設数	2園	0園	27年度	
03		集団保育を実施するための環境整備					03 集団保育を実施するための環境整備 【重点方向】 ・平成20年度に答申を受けた「伊東市立幼稚園のあり方について～市立幼稚園適正配置計画」に基づき、平成26年度から伊東幼稚園と湯川分園を統合し、より好ましい保育環境のもと保育を開始する。
	0301	3歳児保育の実施園数	3歳児保育の充実	14園	14園	25年度達成	
	0302	本園・分園の交流の推進	本園・分園合同保育日数	12回	6回	27年度	
	0303	小規模園のあり方の検討	検討会の開催回数	3回	3回	27年度	
04		子育てニーズに応じた幼保連携の推進					04 子育てニーズに応じた幼保連携の推進 【改善のポイント】 ・幼稚園、保育園間での職員相互交流を研修の中に位置づけ、研修に係る内規を定め、研修を実施する。幼稚園教諭3人が2回ずつ保育園での研修を行う。
	0401	幼保職員交流の推進	幼保連携に関する研修会の開催数	6回	2回	27年度	
	0402	幼稚園での預かり保育の実施	実施園数	0園	3園	27年度	



政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	3	教育の充実（小・中学校）

課（係）名	◎教育指導課 ○教育総務課		
作成年度	平成26年度	（更新日）	平成26年6月18日

目的	管理指標	実績 (H25年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H22年度) ※03はH23年度 実績)	(H24年度末)	備考	
基本計画	将来に夢を持ち、どの子ども生き生きと活動する学校のあるまちを目指します。	学校が楽しいと思う子どもの割合	<小学校> 90.0%	<小学校> 95%	27年度	<小学校> 88.8%	<小学校> 91.6%	
			<中学校> 82.1%	<中学校> 90%		<中学校> 76%	<中学校> 84.7%	
目的を達成するための具体的な方策	01 基礎学力の向上	授業が分かると思う子どもの割合	<小学校> 87.4%	<小学校> 90%	27年度	<小学校> %	<小学校> 87.4%	※01, 02, 04, 05については、平成24年度が初年度調査である。  03 県教育委員会実施の朝食摂取状況調査（小・中全員を対象）における摂取割合
			<中学校> 82.5%	<中学校> 80%		<中学校> %	<中学校> 75.6%	
	02 豊かな人間性・社会性の育成	近所や知り合いの人にあいさつをしている子どもの割合	<小学校> 86.6%	<小学校> 95%	27年度	<小学校> %	<小学校> 88.0%	
			<中学校> 98.8%	<中学校> 95%		<中学校> %	<中学校> 88.2%	
	03 健康な身体と基本的な生活習慣づくりの推進	朝食を摂取している子どもの割合	97.4%	100%	27年度	91.0%	95.3%	
	04 地域連携・地域交流の推進	地域の行事や活動に積極的に参加している子どもの割合	<小学校> 77.3%	<小学校> 80%	27年度	<小学校> %	<小学校> 76.3%	
			<中学校> 75.6%	<中学校> 70%		<中学校> %	<中学校> 64.2%	
	05 教育的支援体制の充実	教育的支援が必要な子どもに必要な支援の提供	適正処理	適正処理	27年度	適正処理	適正処理	

市民との協働方策	《平成25年度末時点の活動状況》		平成26年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 学校行事への積極的な参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会、文化祭等学校行事への参加</li> <li>・授業参観、オープンスクールの実施</li> <li>・青少年育成会との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事やPTA活動等において、保護者や地域の方に積極的に情報を発信し、協働して教育の充実を図る。</li> </ul>

《実績評価》	
(1) 基本計画指標の達成度 ・平成25年度末実績は、平成22年度の基準値から着実に目標値に近づいている。	
(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度 ・02 小学生の実績以外は、全て上昇傾向にあり、各学校の取組が確実に成果を上げている。 ・01、02、04の中学生の実績においては、既に当初の目標値に到達しているが、引き続き取組を進めていく。 ・01「全国学力・学習状況調査」の結果を踏まえ、基礎学力の向上に向けた積極的かつ重点的な取組を実施し、確実に目的達成に繋げていきたい。	

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績		目標	期限	《平成26年度の改善のポイントや重点方向等》			
2桁	4桁			(H25年度末)							
01 基礎学力の向上											
0101	教職員の資質向上	市教育奨励賞応募者数	実人数15人/年	実人数15人/年	26年度	0101 教職員のコンプライアンス意識を高め、体罰を含めた不祥事を根絶し、児童生徒等の信頼感を高めていく。					
			信頼できる先生がいると答えた子どもの割合	<小学校> 87.9%	<小学校> 95%				27年度		
			<中学校> 82.5%	<中学校> 80%	27年度						
0102	指導主事の学校訪問	訪問等による指導	適正処理	適正処理	26年度						
0103	教育研究の推進	教育研究の成果の発表・共有化	適正処理	適正処理	26年度						
0104	外国語活動の推進	外国人や外国人の文化に興味をもち、積極的に接している子どもの割合	<小学校> 62.8%	<小学校> 70%	27年度						
			<中学校> 67.5%	<中学校> 60%	27年度						
0105	読書好きな子どもの育成	1週間に1回以上読書している子どもの割合（漫画・雑誌・教科書を除く）	<小学校> 71.6%	<小学校> 80%	27年度						
			<中学校> 59.8%	<中学校> 70%	27年度						
02 豊かな人間性・社会性の育成											
0201	あいさつの奨励	近所や知り合いの人にあいさつをしている子どもの割合	<小学校> 86.6%	<小学校> 95%	27年度	0202 道徳教育の一層の充実を図り、児童生徒の道徳性を高め、いじめのない学校づくりを進めていく。					
			<中学校> 98.8%	<中学校> 95%	27年度						
0202	道徳教育の充実	困っている人には手助けをすると答えた子どもの割合	<小学校> 87.6%	<小学校> 95%	27年度						
			<中学校> 82.5%	<中学校> 90%	27年度						



0203	環境教育の充実	環境を守ることの大切さを理解した行動をしている子どもの割合	<小学校> 84.1%	<小学校> 90%	27年度	
			<中学校> 76.8%	<中学校> 90%	27年度	
03 健康な身体と基本的な生活習慣づくりの推進						0301 引き続き朝食摂取の大切さについて、全児童・生徒を対象にお便りを配布する等の取組を進める。
0301	安定した生活習慣づくりの推進	朝食を摂取している子どもの割合	97.4%	100%	27年度	
0302	園児児童生徒の健康診断・各種検診の実施	診断結果による健康指導（市主催による個別相談会の開催）	生活習慣病予防個別相談会の開催	継続開催	27年度	
0303	体力・運動能力の向上	新体力テスト（8種目）結果が県平均以上である種目数	<小6> 男子: 8種目/8種目 女子: 8種目/8種目 <中3> 男子: 2種目/8種目 女子: 2種目/8種目	<小6> 男子: 8種目/8種目 女子: 8種目/8種目 <中3> 男子: 8種目/8種目 女子: 8種目/8種目	27年度  27年度	
04 地域連携・地域交流の推進						0401「伊東市学校防災方針」を策定し、地域と学校との連携を一層深め、協力・協同で防災活動を進められるようにする。
0401	防災教育の実施	地域と学校との連携による防災訓練の実施	適正処理	適正処理	26年度	
0402	地域との積極的なかかわり	地域の行事や活動に積極的に参加している子どもの割合	<小学校> 77.3%	<小学校> 80%	27年度	
			<中学校> 75.6%	<中学校> 70%	27年度	
0403	学校評価及び学校評議員制度の活用	P T Aや地域住民の意見や評価の学校運営への反映	適正処理	適正処理	26年度	
0404	子供達の安全安心のための地域協力	地域住民のパトロール、パンダの家等	適正処理	適正処理	26年度	
05 教育的支援体制の充実						0501 小学校1年生については、学習指導の他きめ細やかな生活指導も必要である。スムーズな小学校生活を送るための支援を充実させる。 0502 特別支援学校、特別支援学級程度ではないが、通常学級の中で特別な支援が必要な児童生徒に対する支援を充実させる。
0501	小学校低学年学級支援の充実	小学校において、低学年の多人数学級への支援員の配置	実人数2人	実人数10人	27年度	
0502	特別支援教育支援の充実	小・中学校の通常学級において、特別な支援が必要な児童生徒に支援員を配置	実人数12人	実人数20人	27年度	

0503 適応指導教室の充実	通級により改善し高校進学及び就職に繋がった割合	100%	70%	27年度
0504 教育相談室の充実	相談支援事業の周知	適正処理	適正処理	26年度
0505 通級指導教室の充実	通級指導教室での指導が望ましいが、入級できていない児童	実人数8人	0人	27年度



政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	4	生涯学習活動の推進

課（係）名	生涯学習課	
作成年度	平成26年度（更新日）	平成26年6月18日

目的	管理指標	実績 (H25年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H23年度末)	(H24年度末)	備考	
基本計画	市民が生涯を通じていつでもどこでも快適に学習できるまちを目指します。	市民1人当たりの生涯学習活動の参加回数	1.89回	2.59回	27年度	1.91回	1.91回	各施設の生涯学習した人間の合計を年度末人口で除した数値
		市民1人当たり図書貸出し冊数	2.98冊	4.50冊	27年度	3.10冊	3.05冊	貸出総数（相互借受を含む）を年度末人口で除した数値
目的を達成するための具体的な方策	01 生涯学習機会の提供	中央会館・ひぐらし会館に登録している団体の数	735団体	780団体	27年度	653団体	705団体	
	02 市民の自主的生涯学習活動の推進	市民1人当たりの生涯学習活動の参加回数	1.89回	2.59回	27年度	1.91回	1.91回	
	03 図書館機能の充実	市民1人当たり図書貸出し冊数	2.98冊	4.50冊	27年度	3.10冊	3.05冊	

市民との協働方策	《平成25年度末時点の活動状況》		《平成26年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 自主的な生涯学習活動の広がり	平成25年度は中央会館空調工事のため、11月から2月まで3階各室が使用できなかったことから利用者の減少があるものの、市民の生涯学習活動は引き続き活発であった。市民大学を富戸コミュニティセンターで開催するなどの機会の提供や情報発信・提供に努め、市民の自主的な活動を一層促進した。	市民大学のパソコン講座は、自分のパソコンを持ち込むようしたため、参加者が減少していることから26年度にパソコン更新計画を作成し、27年度からパソコンの計画的な更新とインターネットの導入を図っていく。

《実績評価》
(1) 基本計画指標の達成度
・市民大学、いでゆ大学等の事業展開により、広く市民に生涯学習機会を提供したことで、受講生による自主サークルの創設が図られ中央会館・ひぐらし会館に登録している団体の数は順調に増加している。
(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度
・平成26・27年度版「まなびのとびら」を作成し、平成26年4月1日より生涯学習センター・コミュニティーセンターの各所で配布し、市民の一層自主的な活動を応援していく。
・各施設利用者の利用希望日が重複する時は、他の施設を紹介し、調整に努めている。
・図書館においては、図書資料・情報収集の充実を図ったことにより図書等の貸出冊数を維持できた。今後も図書館の資料・情報の収集を積極的に取り組んでいく。

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H25年度末)	目標	期限	《平成26年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01		生涯学習機会の提供					01生涯学習機会の提供 ・「学びのとびら」の団体数は、指導者の高齢化による解散や個人情報流失を恐れ、掲載しない団体が増加したことから24年度よりも団体数が減っているが、各団体の活動は活発となっていることから、市のホームページに掲載する等を検討し更なる情報の提供を図る。 ・生涯に渡って、学習することはいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような社会を築くことである。行政のみの働きだけではなく、市民による自主的な生涯学習活動の広がりがあり初めて達成する。このことから、引き続き市民の自主的活動の推進に寄与していく。
	0101	学習施設貸出備品の整備	生涯学習センター貸出備品数	17品目	20品目	26年度	
	0102	学習情報の収集・発信	学びのとびらによる活動状況を掲載する団体数	231団体	270団体	27年度	
	0103	生涯学習指導者登録数	市ホームページに公開している生涯学習指導者の登録数	61人	120人	26年度	
	0104	生涯学習団体の情報提供	広報いとう等で生涯学習団体の市民に情報提供した件数	18件	22件	26年度	
02		市民の自主的な生涯学習活動の推進					02市民の自主的な生涯学習活動の推進 ・生涯に渡って、学習することはいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような社会を築くことである。行政のみの働きだけではなく、市民による自主的な生涯学習活動の広がりがあり初めて達成する。このことから、引き続き市民の自主的活動の推進に寄与していく。
	0201	市民向け学習講座・教室の開催	市民大学・いでゆ大学延べ参加者数	1,556人	1,800人	26年度	
	0202	生涯学習団体への支援	生涯学習活動を積極的に行う団体数	245団体	250団体	26年度	
	0203	学習成果を活かした地域における学習交流の推進	3地域生涯学習センターと4コミュニティセンターでの自主的サークルの使用回数	6,100回	6,200回	26年度	
	0204	家庭教育に関する学習機会と内容の充実	明るい家庭づくり・豊かなまちづくりを目的に幼稚園・小学校で実施されている家庭教育学級の実施校数	7校	8校	26年度	
03		図書館機能の充実					03図書館機能の充実 ・ゴールデンウィークと月曜祝日による振替休館火曜日特別開館することによって、市民の利便性を高める。 ・移動図書館車のステーションを見直し、効率的な運行を実施する。
	0301	図書資料の充実	図書館蔵書冊数	182,653冊	183,000冊	26年度	
	0302	図書貸出冊数	図書貸出冊数	214,332冊	225,000冊	26年度	
	0304	移動図書館車の巡回	移動図書館車の貸出冊数	24,658冊	27,000冊	26年度	
	0305	図書館利用者の増加	実利用人数	6,530人	7,000人	26年度	



政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	5	市民スポーツ活動の支援

課（係）名	生涯学習課	
作成年度	平成26年度（更新日）	平成26年6月18日

目的	管理指標	実績 (H25年度)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H23年度末)	(H24年度末)	備考	
基本計画	市民が気軽に快適にスポーツができるまちを目指します。	スポーツ施設の利用状況	299,759人	330,000人	27年度	315,966人	327,578人	スポーツ施設…社会体育施設、学校施設
目的を達成するための具体的な方策	01 スポーツ指導者の養成	指導者数	87人	110人	27年度	92人	84人	指導者数…スポーツ推進委員、スポーツ少年団指導者の合計
	02 スポーツ大会の実施	回数、参加人数	5回 10,701人	6回 11,110人	26年度	6回 10,976人	6回 10,539人	按針祭協賛スポーツ祭、伊東市スポーツ祭、陸上カーニバル、レゾビビーチマラソン、伊東駅伝、地域体育振興会スポーツ大会
	03 体育施設の整備	既存施設大規模改修及び新設体育施設整備に向けた取組み等の回数	3回	5回	27年度	—	—	既存施設の改修、総合体育館等体育施設の新設・建替等の整備に向けた調査・研究、県営施設等の誘致

市民との協働方策	《平成25年度末時点の活動状況》		《平成26年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 スポーツ活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進委員による各種健康教室等の講師としての活動</li> <li>・スポーツ少年団活動</li> <li>・各大会運営への地域体育振興会、市民、高校生ボランティアの参加</li> <li>・地域体育振興会主催の地域体育大会の開催</li> <li>・伊東市振興公社主催のウェルネス教室等スポーツ教室の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マラソン大会の参加者が約3,000人となり、選手の安全面を確保するため、交通規制区間の拡大等関係機関と協議する。また、25年度大会の反省等から、内容の充実、円滑な運営を図る。</li> <li>・駅伝大会は、25年度大会にコース変更したため、反省事項を再検討し円滑な運営を図る。</li> <li>・各種スポーツ大会の周知に努める。</li> <li>・スポーツ大会への高校生、中学生等の参加拡大を図る。</li> <li>・市町対抗駅伝の参加を市民へ周知し、スポーツの関心を深めるとともに、選手候補者として幅広く募集し選手の強化を図る。</li> </ul>

《実績評価》
(1) 基本計画指標の達成度
・目標には及ばなかったものの一定の実績は得られた。近年の健康志向の高まりや東京五輪の決定など、スポーツに対する関心も高まっており、更なる生涯スポーツ人口の拡大に努めている。

(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度  
 【01スポーツ指導者の養成】スポーツ推進委員、スポーツ少年団指導者等に指導者研修等を斡旋した。  
 【02スポーツ大会の実施】各種競技スポーツ大会の実施については、体育協会等関係団体と連携し実施した。  
 【03体育施設の整備】既存施設整備は、振興公社と協議して修繕等を積極的に実施し、快適な利用を推進した。また、体育施設の整備のため、伊東市体育施設整備基金条例を制定し、同基金を設置し、体育施設建設に向けての調査、研究のため、島田市への視察を行った。

方策コード	手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H25年度末)	目標	期限	《平成26年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁 4桁						
01 スポーツ指導者の養成						
	0101 スポーツ推進委員の養成	スポーツ推進委員数	14人	18人	27年度	01スポーツ指導者の養成 ・スポーツ推進委員は、就労者であるため、委員としての活動と就労とが支障ないよう配慮し支援する。 ・少子化の中であるが、スポーツ少年団の活動をPRするなどして団員確保等支援していきたい。 ・スポーツ推進委員やスポーツ少年団指導者は、専門的、技術的指導や助言を行うことから県やスポーツ団体が行う指導者研修会への参加促進に努める。
	0102 スポーツ少年団指導者の養成	スポーツ少年団指導者数	73人	90人	27年度	
	0103 スポーツ指導者研修会への参加促進	研修会参加者延べ人数	23人	60人	27年度	
02 スポーツ大会の実施						
	0201 按針祭協賛スポーツ祭	参加者数	3,799人	4,200人	26年度	02スポーツ大会の実施 ・各スポーツ大会等について、会場確保が競合しないよう、適切に調整していく。 ・陸上カーニバルについては、更なる参加者の増員を図るため、学校等に対し働き掛けをする。 ・オレンジビーチマラソンについては、近年の参加者増のため、コースの拡大等関係機関と協議し、内容の充実や円滑な運営に努めたい。 ・伊東駅伝については、昨年度の大会でコース変更を行ったため、再度検証し、より円滑かつ選手の安全性を確保した運営に努めたい。 ・地域スポーツの主体となる、体育振興会が設立されていない地域に設立の働き掛ける。 ・スポーツ活動の受け皿として、地域スポーツクラブの設立に努める。
	0202 伊東市スポーツ祭	参加者数	2,925人	3,200人	26年度	
	0203 陸上カーニバル	申込者数	654人	600人	26年度	
	0204 オレンジビーチマラソン	申込者数	2,943人	3,000人	26年度	
	0205 伊東駅伝	申込者数	380人	450人	26年度	
	0206 地域体育振興会スポーツ大会	参加者数	0人	50人	26年度	
	0207 地域スポーツクラブの育成	クラブ数	2団体	3団体	26年度	
03 体育施設の整備						
	0301 既存施設の修繕、改修	既存施設大規模改修等	1回	既存施設大規模改修に向けた取組み等 2回	27年度	03体育施設の整備 ・体育施設整備については、(公財)伊東市振興公社等と連絡を密にし、適正な維持管理、修繕に努める。 ・市民体育センターは、施設の耐震診断を実施したため、施設の改修・修繕計画の策定に努める。 ・体育施設整備基金をより周知し、市民等幅広く寄附金を募る。 ・体育施設建設のため、他市町の新設体育館の視察等を行い、調査、研究に努める。
	0302 総合体育館の建設に向けた調査・研究	総合体育館の建設に向けた調査・研究回数等	2回	建設費用・候補地の調査・研究等 3回	27年度	



政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	6	歴史・芸術文化の振興

課（係）名	生涯学習課	
作成年度	平成26年度（更新日）	平成26年6月18日

目的	管理指標	実績 (H25年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H23年度末)	(H24年度末)	備考	
基本計画	市民が気軽に歴史、芸術文化に触れることができるまちを目指します。	歴史文化に触れた人数	10,261人	15,850人	27年度	12,699人	11,375人	総合計画の目標値を実績が上回ったため新たな目標値を設定
		芸術文化に触れた人数 ・(芸術祭への出演・出品人数) ・(芸術祭の観客人数)	1,898人 11,011人	2,200人 12,000人	27年度	2,083人 11,729人	2,000人 10,624人	
目的を達成するための具体的な方策	01 歴史、芸術文化に触れる機会の創出	市内文化施設及び市芸術祭の入場者等	22,435人	30,050人	27年度	26,511人	23,810人	
		文化イベントの誘致件数	0件	2件	27年度	1件	0件	
	02 歴史文化情報の発信	講演会等の参加人数	349人	850人	27年度	400人	189人	
		文化財保護啓発イベントの実施件数	3件	4件	27年度	1件	1件	
		インターネットによる文化情報のアクセス数	2,708回	5,000回	27年度	2,560回	1,947回	
	03 芸術文化活動の支援	伊豆美術祭・後継者育成・文化イベントへの支援件数	50件	70件	27年度	40件	55件	

市民との協働方策	01 文化や文化財を愛護する市民や市民団体との連携	《平成25年度末時点の活動状況》	《平成26年度の改善のポイントや重点方向等》
		<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを中心とした伝統文化育成事業への補助制度を推進。</li> <li>芸術文化にふれ、直接参加する機会を高めることを目的に芸術祭を開催</li> <li>市民文化の振興のため、文化協会と連携をとっている。</li> <li>地域の文化財を愛護する団体と連携し、保護・普及に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化協会をはじめとする文化団体との協業で、市民文化の普及・向上に努める。</li> <li>文化財愛護団体と連携し、文化財や歴史についての普及に努めていく。</li> </ul>

《実績評価》
(1) 基本計画指標の達成度
・前年度に比べ、全体的に数値実績が低下している。イベント内容や広報手段等の見直しの必要がある。
(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度
【01歴史、芸術文化に触れる機会の創出】芸術文化活動を担う世代の中心が高齢であり、活動が低迷傾向にある。
【02歴史文化情報の発信】情報発信について、学校等へのPR活動を積極的に行った。イベントの内容等については今後も検討していく。
【03芸術文化活動の支援】伝統文化を次世代に伝える事業を実施する団体を積極的に支援し、市民が文化に触れる機会を創出した。

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H25年度末)	目標	期限	《平成26年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01		歴史、芸術文化に触れる機会の創出					<ul style="list-style-type: none"> <li>・拓本コンクールは2か年1事業で、平成25年度は出品年にあたり、出品者数は38人であった。参加申込者は98人で前回は上回っており、宿泊日数は約120泊である。</li> <li>・市民に地域の歴史・文化に興味を持ってもらうため、展示資料の公開活動や文化財に関する講座を行う。</li> <li>・芸術祭においては、参加者の自主に関わる部分を増やしていくことで、参加者主体の運営を目指していく。また、参加者自身による広報活動を進め、来場者、参加団体の増加を図る。</li> </ul>
	0101	市内文化施設の入場者数	木下李太郎記念館、文化財管理センター入館者数、観光会館文化事業入場者数	10,261人	13,000人	26年度	
	0102	市芸術祭の開催	出品者数、参加者数、観客数	12,909人	13,000人	26年度	
	0103	演奏会、展示会等の文化イベントの誘致	誘致件数	0件	1件	26年度	
	0104	文化に触れる事業の開催	拓本コンクール出品者数	38人	60人	26年度	
	0105	文化財等に関する講座・教室の開催	参加者数	80人	100人	26年度	
02		歴史文化情報の発信					<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の文化財看板の点検など、愛護する団体や市民と連携しながら、広報を充実させていく。</li> <li>・インターネットHPを充実させていく。</li> <li>・平成25年度の市史講演会は大雪のなかの開催であったため参加者が目標を下回ってしまったが、平成26年度は目標を達成できるよう参加者を積極的に募集していく。</li> </ul>
	0201	伊東市史編さん資料の公開	講座、講演会参加者数	160人	200人	26年度	
	0202	文化財保護啓発イベントの実施	イベント件数	3件	4件	26年度	
	0203	インターネットによる文化情報の発信	アクセス数	2,708回	5,000回	26年度	
03		芸術文化活動の支援					
	0301	伊豆美術祭への支援	出品点数、入場者数	397点、2,200人	550点、2,000人	26年度	
	0302	文化育成への支援	伝統文化子ども育成支援数	3件	5件	26年度	
	0303	文化イベントへの支援	後援件数	40件	50件	26年度	
	0304	文化協会加盟団体に対する支援	後援件数	10件	20件	26年度	



政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	7	国際交流の推進

課（係）名	市長公室課	
作成年度	平成26年度（更新日）	平成26年6月18日

目的	管理指標	実績 (H25年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H23年度末)	(H24年度末)	備考	
基本計画	身近な所で異文化交流が楽しめるまちを目指します。	国際交流に関する体験や行事に参加した市民の割合	13.0%	18.5%	27年度	—	9.1%	平成24・25年実施した市民満足度調査の結果
目的を達成するための具体的な方策	01 国際交流事業の推進	国際交流イベント参加者数	1,300人	1,700人	27年度	1,500人	1,600人	
	02 外国人住民の日常生活環境の支援	日本語教室受講者数	646人	800人	27年度	672人	805人	
	03 国際理解の啓発	国際交流関係講座数	5講座	6講座	27年度	3講座	4講座	

市民との協働方策	《平成25年度末時点の活動状況》		《平成26年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 市民参加による国際交流イベントの実施	国際交流フェスタは、市民が異文化に触れる機会となっている。今回はあいにくの雨天で例年ほどの来場者数ではなかった。しかし、新たに友好交流都市となったアゼルバイジャン共和国・イスマイリ州に関連し在駐日アゼルバイジャン大使が自ら紹介ブースを運営するなど、伊東市民と交流を深めることができた。	国際交流フェスタへの参加市民を増やし、国際交流への関心を深めてもらう。

《実績評価》

(1) 基本計画指標の達成度

- 平成25年度は「21世紀アカデミー」を再開し、ネイティブの講師による幼児への英語や絵画の指導を行った。幼児期から英語に触れることで国際交流等に臆することなく関わることのできる人材を育成する一助となった。

(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度

- 市内で行われる最大の国際交流イベントである国際交流フェスタは、参加者が年々増加しているが、平成25年度は雨天のため減少し、他のイベントは横ばいで推移している。

[参加者数]      フェス    +    他イベント    = 国際交流イベント参加者

H21	1,000人	+	200人	= 1,200人
H22	1,300人	+	200人	= 1,500人
H23	1,300人	+	200人	= 1,500人
H24	1,400人	+	200人	= 1,600人
H25	1,100人	+	200人	= 1,300人

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H25年度末)	目標	期限	《平成26年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01 国際交流事業の推進							
0101		友好都市（イギリス・トウェイン市、イタリア・リエティ市）及び友好交流都市（アゼルバイジャン共和国・イスマイ州）等	交流回数	8回	6回	27年度	01国際交流事業の推進 ・他のイベントの参加市民を増やす方策を試みる。
0102		国際交流協会の活動の促進	国際交流協会会員数	432人、38団体	400人、45団体	27年度	
0103		国際交流フェスタの開催	入場者数	1,100人	1,500人	27年度	
02 外国人住民の日常生活環境の支援							
0201		外国人市民相談の充実	相談件数	4件	5件	27年度	02外国人住民の日常生活環境の支援 ・日本で生活していく上で、外国人が日本語を学べる場は大変貴重なため、継続実施できるよう支援していきたい。
0202		日本語教室の周知と充実	受講者延べ人数	延べ646人	延べ800人	27年度	
0203		CATVによる外国人市民向け情報の英語放送	放送回数	毎日5回	毎日5回	27年度	
0204		伊東市ホームページの外国語翻訳	翻訳言語数	4言語	4言語	27年度	
03 国際理解の啓発							
0301		外国語教室の開催	開設講座数	3講座	4講座	27年度	03国際理解の啓発 ・異文化を理解するため、外国を知る機会となる講座を今後も数多く開催したい。
0302		学校へ国際友好都市紹介講座の派遣	派遣回数	4回	4回	27年度	
0303		異文化理解講座の開催	開催講座数	2講座	2講座	27年度	



政策目標	3	心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち
施策分野	8	青少年の健全な育成

課（係）名	生涯学習課		
作成年度	平成26年度	（更新日）	平成26年6月18日

目的	管理指標	実績 (H25年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H23年度末)	(H24年度末)	備考	
基本計画	青少年が豊かな人間性、社会性を身につけ、健やかに育つまちを目指します。	あいさつ運動賛同者数	16,343人	17,100人	27年度	15,306人	16,043人	
目的を達成するための具体的な方策	01 声かけ・あいさつ運動の推進	あいさつ運動賛同者数	16,343人	17,100人	27年度	15,036人	16,043人	
	02 非行防止体制の強化	青少年補導の参加率	60.00%	80.00%	27年度	74.60%	58.39%	
	03 青少年健全育成活動の活発化	小学生ふるさと教室の参加延べ人数	393人	500人	27年度	320人	399人	
	04 次世代を担うリーダーの育成	夢チャレンジくらぶの参加延べ人数	42人	100人	27年度	—	28人	23年度は東日本大震災による事業見直しにより中止した

市民との協働方策		《平成25年度末時点の活動状況》	《平成26年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 地域の青少年声かけ活動の推進	あいさつ運動は、事前キャンペーンと7月と11月に全市であいさつ一斉活動を実施するなど、学校や市民への浸透も進んでいるおり、賛同者・団体ともに順調に増加している。	青少年の健全育成には、地域の大人の意識を高めることが重要であるということを理解してもらうため、声かけ・あいさつ運動の活動に対する一層の推進を図るとともに大人のスマホ教室等を開催していく。

《実績評価》	
(1) 基本計画指標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年度は一斉活動に先立って事前キャンペーンを実施し、7月と11月に全市であいさつ一斉活動を広く市民に周知した。学校や各団体、事業所等と連携を図り、青少年の育成を見守るとともに、青少年の問題は地域の大人の問題であるとの意識を高めた。</li> </ul>
(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>夢チャレンジくらぶに参加した中高生は、事業が進行するにしたがって素晴らしいリーダーに成長したことから26年度においても広く募集を行い、次世代を担うリーダー育成に努める。</li> </ul>

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H25年度末)	目標	期限	《平成26年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01 声かけ・あいさつ運動の推進							
	0101	地域におけるあいさつ運動の推進	自治会等の地域団体の賛同数	64団体	70団体	26年度	・地域社会での人間関係の希薄化、家庭や地域の教育力の低下などから青少年の様々な課題や問題が生じている。 このような状況を改善するには子供の問題は大人の問題であるという意識を高め、地域の力を向上させることで問題の解決となることから、地域住民一人一人が地域への所属感をもちより良い人間関係を構築する。この活動として地域における声かけ・あいさつ運動や非行防止を積極的に推進し、地域づくり、家庭づくりにつなげる。
	0102	小・中学校におけるあいさつ運動推進	小・中学校でのあいさつ運動の実施回数	720回	750回	26年度	
	0103	あいさつ運動の広報	あいさつ瓦版・広報掲載回数	6回	8回	26年度	
	0104	あいさつ運動の啓発	あいさつ標語コンクールの提出数	4,760作品	5,000作品	26年度	
02 非行防止体制の強化							
	0201	青少年補導センターの開設による子どもたちの見守り	青少年補導への参加者数	480人	500人	26年度	
	0202	地域との連携強化	青色回転灯車両登録台数	29台	30台	26年度	
	0203	警察と連携した触法事件への対応	青少年触法事件	18件	適正処理	26年度	
	0204	有害環境浄化対策の推進	指導施設数	2施設	0施設	26年度	
03 地区青少年健全育成活動の活発化							
	0301	地域における人づくりと人材活用	学年の異なる小学生が家庭から離れ共同生活をし自立心と互いに助け合う心を育む通学合宿の設置学区数	5学校区	6学校区	26年度	
	0302	青少年育成活動の実施	放課後子ども教室の数	5教室	6教室	26年度	
	0303	青少年教育の推進	善行賞の表彰者数	79人	85人	26年度	
	0304	地域活動団体の推進	地域子ども会の会員数	1,040人	1,200人	26年度	
	0305	青少年育成市民会議の推進	地域ぐるみの青少年健全育成活動の参加者総数	550人	600人	26年度	
04 次世代を担うリーダーの育成							
	0401	リーダー育成機会の拡大	夢チャレンジクラブの参加者数	6人	10人	26年度	
	0402	少年教育の推進	小学生ふるさと教室の参加者数	42人	50人	26年度	
	0403	年少者を指導する中高生の育成	静岡県初級・中級青少年指導者認定者数	6人	12人	26年度	
	0404	地域活動団体の支援	ボーイスカウト伊東地区・ガールスカウト49・92団の活動回数の計	90回	100回	26年度	